

表26 立ち上げにあたって役に立ったこと、立ちそうなこと:チーム形成①

- 適切な研修
 - 「チーム形成のプロセスについての研修があればよい」
- ミーティングの雰囲気と機能
 - 「チーム立ち上げの4ヶ月前から月に1回ミーティングを行った」
 - 「定期的なミーティングとタイムリーなミーティング」
 - 「ミーティングで発言しやすい雰囲気」
- チームとしての文化、行動
 - 「チームの文化を明確にしていく」
 - 「今、起こっている出来事に直面化し、チームで解決していく経験を共有する」
 - 「チーム発足して時間がたっているので自分たちに足りないものもよくわかっていた分、皆がまとまって発足できた」

表27 立ち上げにあたって役に立ったこと、立ちそうなこと:チーム形成②

- チーム精神科医の協力
 - 「Drが協力的なため、とてもやりやすい」
 - 「顧問医やリーダーが客観的にチームを理解している」
- インフォーマルなスタッフ同士のつながり
 - 「各スタッフの個性を尊重する」
 - 「面白企画盛りだくさん(スタッフの誕生祝い、ランチミーティング、時間外の食事会・いも煮会・花火大会など)」
 - 「スタッフの家族ともチームリーダーが交流の機会を持っていること」
 - 「各スタッフの誕生日会を通して、人生や存在することの大切さを経験する」

表28 立ち上げにあたって役に立ったこと、立ちそうなこと: 具体的ノウハウ

- 先行するACTチームから学ぶ
 - 「講師派遣」
 - 「メールなどの連絡手段での添削指導」
 - 「加入基準や個別ケアプランシートは、先行するACTチームのものを提供してもらい、それを参考にして、ほぼ同様のものを使用している」
 - 「先行する他のACTチームのツールを主に使わせてもらっている」
- 全国レベルの研修会などで学ぶ
 - 「国立精神・神経センターのACT研修への参加、NPO法人コンボでの研修会への参加で具体的なノウハウを学んだ」
- 内部スタッフのこれまでのACT経験を活かす
 - 「ACT経験者が複数いること」
 - 「加入基準は見直したが、以前のを多く活用し、電子カルテに組み入れていっている」

表29 立ち上げにあたって役に立ったこと、立ちそうなこと: その他

- 「ACTチームとの交流会や意見交換会」
- 「ACTチームへの見学及び1日(もしくは半日)訪問同行」

表30 アンケート協力機関のストレンクス①

- 他の地域にくらべ精神保健福祉に対し、いろいろの面での下地が整っている。訪問看護ステーションでの精神への訪問が、少しずつだが地域でも認められはじめた。隣の地区に、ACT立ち上げ支援を受けている機関がある。精神科勤務経験豊かなスタッフが在籍している。日々笑いの絶えないアットホームな雰囲気。車で15分圏内に、精神科クリニックや市役所、保健所などの施設がある。
- 立ち上げから1年間やれたという経験。顧問医やリーダーがチームの方向性をもっている。チーム外にも仲間が増えた。チームの文化がチーム内に浸透してきた。スタッフが楽しくやりがいをもって仕事をすることができている。
- スタッフが明るく前向き。病院と連携しているため対象者を探しやすい。バックアップがあるので思いきり粘れる。在宅支援の必要な人に訪看スタイルからACTスタイルまで幅広くサービスが提供できる。

表31 アンケート協力機関のストレンクス②

- 訪問看護師、精神保健福祉士、作業療法士が関わってACTを目指したプログラムを運営しているので、たくさんの専門職が関与している。病院には精神科救急入院病棟があり、緊急入院が必要な場合も対応できる。コメディカルが病院の職員であるため、長期入院・社会的入院になっている方を把握しやすい。専従のチーム精神科医はいないが、熱心に相談に乗ってもらえる医師がいる。スタッフ一人ひとりが個性的である。
- 少人数でも機動力の高さを目指している。チームドクター以外のドクターとも連携が良い。ミーティングをしっかりとやっている。病棟やリハビリテーション部門の申し送りへの参加など組織との連携を大切にしている。オフィスへの出入りが自由なこと(スタッフ、利用者など)。退院支援に積極的に関与し、常識にとられない支援の柔軟性がある。家族支援に積極的。環境調整にたけたソーシャルワーク。当事者スタッフがいる。病棟訪問など、お金にならない支援も多く行っている。ACT経験のあるスタッフが複数いる。就労支援担当者がいる。地域とのインフォーマル・フォーマルネットワークがある。加入基準をしっかりと定めて実行しており、関係機関への広報もされている。データベースが工夫されている。

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

精神障害者の退院促進と地域生活支援のための多職種による
サービス提供のあり方とその効果に関する研究
平成 20-22 年度 総合研究報告書

発行日 平成 23 年 4 月

発行者 研究代表者 伊藤順一郎

発行所 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1

